

# 既設ALPS共沈タンク pH計からの滴下について



## 東京電力ホールディングス株式会社

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

### 1. 概要等



#### (1) 概要

5月16日、委託運転員のパトロールにて、pH計を養生している袋から水が滴下しているとの連絡があった。(滴下量：1cm×2cm)

#### (2) 対象機器

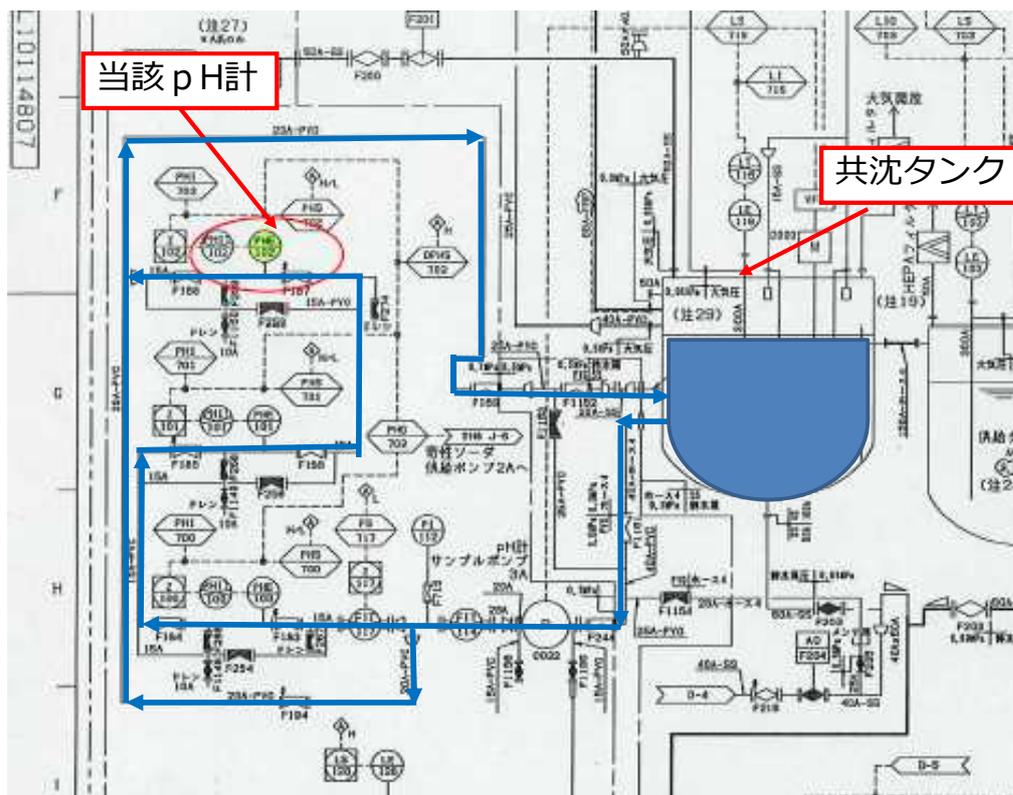
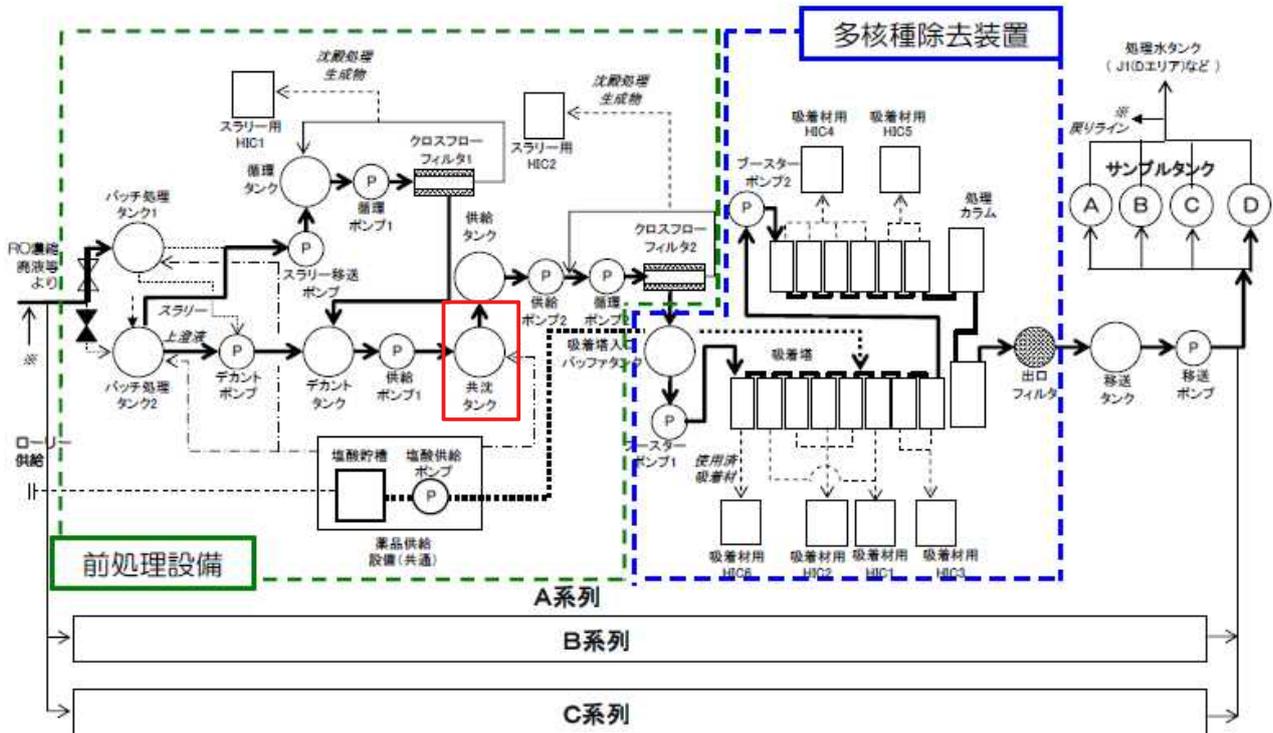
AL-PHE102C (既設ALPS共沈タンクpH計)

#### (3) 時系列

4月9日 既設ALPSサンプルポンプ停止 (ALPS(C)循環待機運転中)  
停止理由は、サンプルポンプ流量計指示不良事象の修理のため、サンプルポンプを停止とした。(サンプルポンプ不良と判明)

4月20日 pH計点検及びOリング交換  
Oリング交換後にpH計をインサービス(前後弁開)し、検出器下部を袋で養生し、サンプルポンプ運転状態で漏えい確認を行う手順であったが、上記理由でポンプが停止中のため養生まで実施し、漏えい確認はポンプ起動後にすることとした。

5月16日 委託運転員のパトロールにて、pH計より滴下を発見。なお、その後(12:19) pH計の前後弁を閉し、滴下は止まった。





## 5. 原因等

## (1) 推定原因

- 締め付け不足、若しくは、Oリングの噛み込み等が想定される。
- 作業員は手順書およびチェックシートに基づき、pH計の前後弁を開とし、サンプルポンプが停止中のため、漏えい確認はポンプ起動後に実施することとした。
- 共沈タンクの水頭圧が当該pH計に加わり漏えいに至ったものと推定。

## (2) 今後の対応

- pH計の分解確認（Oリングの異常有無、異物有無確認）を不良のサンプルポンプ交換時期にあわせて実施予定。
- 手順書、チェックシートの見直し検討。